

## 1. 評価結果概要表

### 【評価実施概要】

事業所番号	4079800191
法人名	社会福祉法人 福智会
事業所名	グループホーム ふくち
所在地	福岡県田川郡福智町弁城4 193-28 (電話) 0947-22-2101

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年6月21日	評価確定日	平成19年8月23日

【情報提供票より】 (平成19年6月6日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年11月1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	12 人 常勤 12人, 非常勤 0人, 常勤換算 12人

#### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての ~ 1階部分

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,100 円		

#### (4) 利用者の概要 (平成19年6月6日現在)

利用者人数	18 名	男性	9 名	女性	9 名
要介護1	9 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.2 歳	最低	71 歳	最高	96 歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	田川慈恵病院
---------	--------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

特別養護老人ホームに隣接し、山々に囲まれた静かな高台に建てられた事業所で、敷地も広くゆったりしている。「人が安心して暮らせるホーム・家族のために役に立つ施設」づくりを目指して、立ち上げた事業所である。法人施設が併設されていることを有効利用し、夏祭り、敬老会、地域交流会等大きな行事を一緒に行っている。利用者はお互いに支え合いながら明るく毎日を過ごしており、それを職員がさりげなく支援している。

### 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題について一覧表を作成し、職員で協議の上、介護計画の家族了承の押印、書類の保管場所、洗剤の保管場所等、具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、全職員が意義や内容について理解して取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、地域との交流の推進、利用者家族との交流、日常生活に密着した活動等について、幅広く意見交換を行っている。参加者からの意見をサービスの質の向上に活かし、行事等を工夫している。事業所の取り組みや事業計画、外部評価の結果についての報告も行い、議事録もある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	運営推進会議、カンファレンス会議への家族の参加や家族アンケート調査の実施により、家族の意見を吸い上げる仕組みができています。事業所は意見を聴いて問題の解決にあたっている。また家族の訪問時に利用者の様子を伝え、連絡を取れるような体制づくりを行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入していないが、自治会長・老人会長と一緒に、利用者が地域住民の一員として共に暮らすため地域交流の年間計画を立てている。地域の清掃活動・敬老会・町民運動会・文化祭などの行事に参加し、交流に努めている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は全職員で協議して、地域密着型サービスの視点を含んだ事業所独自のものをつくりあげている。理念は玄関の目に付くところに掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、毎日朝礼・終礼で唱和している。また、理念の内容が理解できるよう管理者が職員を指名し、具体例を挙げて発表する仕組みをとり、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支え合い</b>					
3	5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入していないが、自治会長・老人会長と一緒に、利用者が地域住民の一員として共に暮らすため地域交流の年間計画を立てている。地域の清掃活動・敬老会・町民運動会・文化祭などの行事に参加し、交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全職員が意義や内容について理解して取り組んでいる。前回評価の改善課題について一覧表を作成し、職員で協議の上、介護計画の家族了承の押印、書類の保管場所、洗剤の保管場所等、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、地域との交流の推進、利用者家族との交流、日常生活に密着した活動等について、幅広く意見交換を行っている。参加者からの意見をサービスの質の向上に活かし、行事等を工夫している。事業所の取り組みや事業計画、外部評価の結果についての報告も行い、議事録もある。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>行政との積極的に連携をはかり、行政等の主催するサポーター会議に出席し、サービスの質の向上や制度への対応について勉強会を実施している。また、事業所の広報誌を、健康センターや行政担当課に届けている。</p>		
7	10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度や権利擁護について、職員研修会で管理者が内部研修を行い、職員に周知している。家族にも、制度について説明している。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の訪問時に利用者の様子を知らせるようにしている。特別なことや体調の変化などは、その都度電話で報告している。3か月に1回、利用者に葉書を書いてもらい、職員がコメントを入れて家族に郵送したり、ホーム便りを送付している。また、金銭の出納についても3か月に1回、報告している。</p>		
9	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議の委員に利用者の代表、家族の代表を選んでいるため意見が出せるようになっている。家族が訪問した際は、できるだけ職員が声をかけ、意見を聴くように努めている。今年から年2回家族のアンケートを計画・実施し、そこでの意見は事業所の運営に反映させている。</p>		
10	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動・離職については、必ず6ヶ月の引き継ぎ期間を十分にとり、スムーズに移行できるよう配慮している。またユニット毎の職員の交流を頻繁にし、職員交代による利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の年齢は幅広く、性別、資格の有無で排除していない。個人の意欲を尊重し、能力が発揮できるように配慮し、働きながら資格取得のための支援体制を構築している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>行政主催の人権講演会に参加し、参加後は朝礼・終礼等で、参加していない職員へ講演会の報告を行っている。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者は、職員に段階に応じた外部研修参加の機会を設けている。全員が研修を受けられるよう輪番制にし、研修内容が重複しないように配慮している。職員の希望にも応じている。受講後は、内部で伝達研修を行っている。また、内部研修も積極的に行っている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他事業所とのネットワークづくりを行っている。また、管理者や職員は定期的に福祉関係者との勉強会に参加して、情報収集に努めてサービスの質を向上させるよう取り組んでいる。</p>		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人や家族に事前見学をしてもらい、職員や他の利用者等に馴染めるように、家族等と相談しながら工夫している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は介護するだけでなく、利用者から料理や生活の知恵を教わることがあり、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症のアセスメントシートを活用し、利用者の言葉にしづらな思いを日々の行動や表情から汲み取り、把握するように努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は日頃から本人や家族・医師の意見を聴く等して、把握している。定期的にカンファレンス会議には、ケアマネージャー・職員・家族も出席して、アイデアや意見を出しながら検討している。作成した介護計画には家族の同意の署名があり、他の職員にも周知できるよう朝礼・終礼などで確認している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6カ月毎にモニタリングを実施して、計画の見直しをしている。また、利用者の変化や問題があればその都度見直しを行い、利用者の希望に添ったケアができるように努めている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院加療中の利用者については、家族・病院と連携をとりながら、早期退院できるよう支援している。また退院後も治療を受けながら事業所で過ごせるように、医療関係と相談しながら、柔軟な支援をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望するかかりつけ医で医療が受けられるように、可能な限り受診の送迎等を職員が行うように支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は家族・病院・事業所で話し合いながら方針を決めるようにしているが、方針について全職員で共有しているとは言いがたい。	○	重度化や終末期の方針について、事業所・家族・本人・医療関係者・職員全員で話し合い、家族等の納得の上で方針を全員で共有してほしい。
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対して、排泄確認や誘導時の言葉かけは、周囲に配慮してさりげなく行っている。特に利用者の誇りを損ねることがないように、日常的に管理者が全職員に注意を促している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の日課を優先するのではなく、起床や朝食時間等、利用者一人ひとりのペースや希望にそって支援している。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備や片付けをしている。食事は利用者のペースを大切に、共に同じものを食べ、楽しい時間を共有している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせて、入浴を楽しめる支援を行っている。入浴拒否の利用者については、上手に言葉かけをしながら誘導し、入浴できるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や興味等を活かし、菜園の手入れや梅干作り等、役割や楽しみごとを支援している。また、利用者の個性や特技を把握して、一人ひとりに支援している。		
28	63	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりのその日の希望にそって、買い物や散歩、行事等で、日常的に外出支援をしている。全員が外出を楽しめるように支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の取り組みをしており、鍵をかけないケアを実践している。職員は利用者の状態や行動を把握して見守り、利用者が外出すると、納得するまで一緒に付き添っている。		
30	73	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設施設と合同で防災訓練を実施し、消防署による総合訓練も実施している。職員は消火器の使い方、避難誘導や場所の確認ができています。近所に民家がないので、非常時はサイレンを鳴らし、併設の施設に協力がを求める体制となっている。災害マニュアルを作成している。	○	今後は、非常食備蓄や備品の点検も定期的実施するようにしてほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立は栄養士が指導している。利用者の健康状態や嗜好・要望に応じて、献立を変更している。食事量や水分摂取量などは毎回チェックして、詳細に記録して管理している。</p>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各ユニットの中庭にはデッキがあり、椅子やテーブルを設置している。また、共用空間は適度な明るさで、不快な音や声もなく、換気にも注意している。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室ごとに使い慣れたものが持ち込まれ、利用者一人ひとりが過ごしやすいように工夫している。</p>		

※  は、重点項目。